

## 令和5年度 第8回 政策決定会議 会議録②

- 
- ◆開催日時：令和6年2月22日（木） 13：43～14：05
  - ◆開催場所：市長公室
  - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、波積副市長、大下教育長
  - ◆説明者：牟田生涯学習部長、河内スポーツ振興課長、畑部管理担当主幹、  
奥野建設部長、黒見水とみどり課長、渡邊整備担当参事、奥主任
- 

### ◆審議事項

「屋内プール整備方針」（案）について・・・・・・・・・・スポーツ振興課、水とみどり課⇒承認

---

### ◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉以前から本件は議論になっていたが、何に基づいた事業かが明文化できた有意義な方針である。本来プールは全て民間で行う方がよいが、民間のプールで学校水泳授業を実施する場合、経営的に難しいという話も聞くので、本方針の実行にあたり、事業者がスケジュール管理をどれだけ受け入れられるか、満足な施設整備ができるかというところはしっかり検討し、交渉してほしい。枚方市では令和4年からプール事業の民間委託を大々的に始め、テレビなどでも取り上げられている。ここはスポーツ運営事業者が受託しているようだが、施設利用型やサービス派遣型といった様々な形を混ぜて行っている。他の各自治体も民間のプールを使う方向に動き出しており、事業者側からも交渉してくる可能性があるので、ぜひとも頑張してほしい。

プールの施設設備について、子ども達が利用するため、一般的なスポーツクラブのプールの施設とは違った必要なもの、団体の更衣室や厳しい衛生面・安全面など様々な要求水準を決めていく上で、民間事業者がどこまで対応できるか、財政面も含め、よく議論してほしい。

スケジュール管理を行っていく上で、もしもの時には既存の施設を、最低限の補修をしながら使用していくことも可能性として頭に入れておかなければならないと思っているので、よろしく願いしたい。

最後に、アクセスや駐車場といった周辺の問題も出てくるので、スポーツ振興課と水とみどり課が連携のうえ進めること。

〈波積副市長〉いざという時に泳げないことは命にかかわる問題なので、「みんな泳げるプロジェクト」は個人のリスク管理の面で素晴らしい。その一環として、プールをある程度公共機関で持つということは必要と思っている。私自身、使用者の立場で言うと、泳ぐことが好きなので週一回以上ジムに行って泳いでおり、全国の公共の温水プールを回っている。岸和田に来て少し不満だったのは温水プールがないことだが、一方で長さ50

m、深さ2mのプールは必要ない。広島県営プールがそういうプールだが、大人が泳いで怖いので、まして子どもは怖いと思う。そのようなものを学校教育のために「みんなで泳げるプロジェクト」の対象として作る必要は全くなく、25mプールという案は素晴らしい。楽しみで、いいプランなので進めてもらいたい。

〈教 育 長〉生涯学習部から説明したが、ここまでに至る過程で全て建設部水とみどり課の協力を得ている。プールの所管課は教育委員会だが、今後も一体となって取り組んでいきたいと思っている。

いずれ学校プールも屋内プールに移行していくことになると思うが、それで民間プールを含めて全需要をカバーできるかについては引き続き十分注視し、あまり市の負担がなく、さらに屋内プールの整備が必要ということになれば、また相談に乗っていただきたい。

〈市 長〉フィーエルヤッパンの施設を廃止することになるが、これに対し問題はないか。

〈水とみどり課長〉フィーエルヤッパン協会とは現在音信不通である。

〈市 長〉現在関係する人が少なくとも、当時岸和田にフィーエルヤッパンの会場を整備した際には熱い思いを持った人がいたはず。そういった人の反発がないか少し気になるころではある。

整備について、どんな手法が良いかサウンディングで各企業が色々な手法を提案してくれており、財政的な側面だけで見るとこの企業、運営的な側面で見るとこの企業、という話があると思う。7千人の子ども達の水泳を担う施設であり、一番大事なのは事業が成功することで、子ども達が泳げるようになったり、水泳が好きになったりすることである。手法や業者を選定するうえで、財政的なメリットも1つの要素であると思う。しかし、それが全てではなく、子ども達が一番満足するであろうものを選定することに主眼を置いて進めてほしい。

最後に、教育長からも学校水泳授業の需要に対し施設が足りなければという話があったが、今回の方針はこれでよいが、水泳のカリキュラムが変更されたり授業数が増えたり、新たな取組で需要が増してきたときには、近隣他市との連携など広域の視点を持って進めてもらいたい。他のまちと一緒にすることで何か新しいもの、可能性が出てくるかもしれない。

〈教 育 長〉1点だけ心配なのは着衣水泳ができなくなること。浄化に非常に負担がかかるため、屋内プールでの着衣水泳は基本的に嫌がられ、民間でも受け入れしてくれないと聞く。命を守る、身の安全を守るという意味では着衣水泳の機会は重要なので、何とか着衣水泳できるよう、検討の際には念頭に置いていただきたい。

〈整備担当参事〉そういったカリキュラムを持っている企業と連携して運営できれば可能だと考えている。

〈堤 副 市 長〉要求水準の際に議論し、必要なものは求めていけばよい。

〈管理担当主幹〉着衣水泳について調査したところ、着衣水泳用の服があり、それを使ったプログラムを実施している民間事業者があることは把握している。通常の服で塩素の水に入ると、漂白している状態なので、次に使えず水を入れ替えなければいけなくなったり、糸くずでポンプが詰まったりすることが問題になる。民間事業者に相談したら可能かもしれない。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和6年2月1日

## 政策調整会議付議依頼書

依頼者名 生涯学習部長、建設部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

## 記

付議事項名	「屋内プール整備方針」(案)について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	現在、岸和田市及び岸和田市教育委員会が所管する市民プール及び中央公園プールはいずれも老朽化が著しく、利用者の安全確保の観点から一部休止している状況である。 また、市民プールで実施している学校水泳授業は、天候に左右されやすく、安全な水泳授業の実施が困難となっている。 そこで市民の健康増進の機会の創出を図り、安全に、かつ、円滑に学校水泳授業を実施できるよう全天候型屋内プールの整備方針を策定するものである。
説明者	生涯学習部 牟田部長 スポーツ振興課 河内課長、畑部管理担当主幹 建設部 奥野部長 水とみどり課 黒見課長、渡邊整備担当参事、奥担当員
付議事項の概要	別紙のとおり

別紙

付議会議	令和5年度 第8回会議
付議事項	「屋内プール整備方針」(案)について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	屋内プールの整備により、みんな泳げるプロジェクトの推進に寄与し、市民の健康増進の機会の創出を目指す。

★総合計画上の位置付け

1030202	基本目標	岸和田の次世代を育むまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	子どもの健康と安全が保たれている
	個別目標の方向性	② 食育や体力づくりなど子どもの健康な身体づくりを進める
	行政の役割	運動を通じた体力向上を推進する

★現状と課題

市民プールにおける施設の老朽化により、安全確保が厳しいプールについては、休止せざるを得ない状況となっていることから、今後、市民の利用や学校水泳授業の継続が困難な状況となっている。また、近年の気候変動により、猛暑の影響等により利用者が減少傾向となっている。そこで、通年の利用が可能となる全天候型屋内プールの整備を進めることで、市民の健康増進の機会の創出と安全な学校水泳授業の実施を行えるよう整備方針を策定するものである。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
屋内プール整備事業者の公費支援業務委託				18,600	11,400			
屋内プール整備にかかる設計及び整備事業						未定	未定	
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源				18,600	11,400		
	その他							
事業費	計			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
			30,000	18,600	11,400	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性\*

人員増の必要性		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有	無	1	2	1	1	1

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
① スポーツへの親しみや参画の向上を図るとともに、スポーツができる環境づくりを進める	%		44.7	45.2			60.9		
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。